

リポート
Report

大磯町郷土資料館だより

1995・3・31

11

もくじ

- ◇大磯町に生きる哺乳類たち 2
◇トピックス/表紙説明/資料の受入 4



大磯町に生きる哺乳類たち

大磯町史執筆委員 青木雄司

1. 大磯町の哺乳類

現在、大磯町には外来種やクジラ類を含め23種の哺乳類が記録されています。

目	科	種	備考
食肉目	トガリネズミ科	ジネズミ	
	モグラ科	ヒミズ	
		モグラ	
翼手目	ヒナコウモリ科	アブラコウモリ	
霊長目	オナガザル科	ニホンザル	野生?逃げ出し?
兎目	ウサギ科	ノウサギ	
		カイウサギ	逃げ出し
齧歯目	リス科	ムササビ	
		ニホンリス	逃げ出し
	ネズミ科	アカネズミ	
		ヒメネズミ	
		カヤネズミ	
		ハツカネズミ	帰化
クマネズミ	帰化		
ドブネズミ	帰化		
食肉目	イヌ科	タヌキ	
	イタチ科	イタチ	
		アナグマ	
	ジャコウネコ科	ハクビシン	帰化
偶蹄目	イノシシ科	ニホンイノシシ	野生?逃げ出し?
鯨目	アカボウクジラ科	イチネウハクジラ	遡来
		アカボウクジラ	遡来
		マッコウクジラ科	コマッコウ

表1 大磯町で確認された哺乳類リスト

2. 大磯町内の環境による比較

大磯町内の異なる5つの環境を持つモデル地区を選び(図1)、哺乳類相の比較を行いました(表2)。

6つの環境で確認されているのはタヌキ・イタチ・ハクビシンです。これらの種は自然環境だけでなく、都市環境までも取り入れて生活しています。住宅地を取り入れる為に、地上部だけでなく下水溝も利用して移動をしていると考えられます。住宅地で確認されたのは、タヌキとハクビシンはゴミを、イタチはドブネズミ類を食べにきた為と考えられます。さらにハクビ

シンは屋根裏に住み着く事もあるので、どこかにねぐらとしている家屋があるのかもしれませんが。

住宅地を除く5つの環境で確認されているのはノウサギとモグラです。モグラは条件が整えば大都会の中でも生息していますが、地面が踏圧などにより固められている事、いい土地があっても面積が小さい事により住宅地で確認されなかったと考えられます。ノウサギは住宅地に隣接して自然環境がない事、餌がない事、下水溝を利用しない事、などから確認されなかったと考えられます。

人家付近でしか確認できなかったのは、アブラコウモリ・ハツカネズミ・クマネズミ・ドブネズミです。アブラコウモリは家屋に住み着く事、ネズミ類は俗に家ネズミと呼ばれ人間が活動する場所で生活する事、からそれ以外の所ではあまり見られません。

林のある環境でしか確認できなかったのは、ヒミズ・ムササビ・ヒメネズミです。これらは林がなくなると真っ先に消えてしまう種類といえます。

谷戸だけで確認できたのはカヤネズミだけです。これは休耕田に生えるイネ科植物に依存して生活しているためです。カヤネズミは谷戸以外のイネ科植物の生えている環境でも確認されました。

ニホンザル・ニホンイノシシが確認されましたが、野性のもか逃げ出したものかは不明です。

I. 鷹取山

鷹取山：丹沢山塊から続く森林帯。照葉樹林・人工林・ミカン畑・広葉樹林があります。

特徴：小型哺乳類は、ヒミズ・アズマモグラ・アカネズミ・ヒメネズミの4種が生息しています。ジネズミが見つかりませんでしたが、近くで見つかることから高麗山に生息していることから鷹取山での生息の可能性は高いと考えられます。他地区に比べて確認



図1 大磯町内の環境モデル地区

種	鷹取山	高麗山	畑の混 じる 住宅地	住宅地	草地と ミカン 畑	谷戸
ジネズミ		○			○	
ヒメズ	○					
モグラ	○	○	○			○
アブラコウモリ			○			
ニホンザル	○	○			○	
ノウサギ	○	○	○		○	○
カイウサギ		○				
ニホンリス		○				
ムササビ	○					
アカネズミ	○	○				○
ヒメネズミ	○					
カヤネズミ						
ハツカネズミ			△			○
クマネズミ					○	
ドブネズミ			○	○		
タヌキ	○	○	○	△	○	○
イタチ	○	○	○	△	○	○
アナグマ	△					
ハクビシン	○	○	○	○	○	○
ニホンイノシ	○					

表2 大磯町内の環境による比較

○：モデル地区で確認

△：モデル地区のすぐ近くで確認

された野生哺乳類の種類が多いので、大磯町では一番自然度が高いと言えます。山頂付近でノラネコや逃げ出したと思われるリス（種不明）が確認されています。

II. 高麗山

高麗山：東照山・高麗山・浅間山からなる地域。照葉樹林・広葉樹林・人工林があります。

特徴：鷹取山で観察されたムササビは見られません。しかし、高麗山の北側に位置する平塚市高根にある岩戸分神社に古いムササビの巣穴があるので、過去には生息していたと思われます。ヒメネズミやムササビが生息していないので鷹取山より自然度は低いといえます。ベツが逃げ出したと思われるカイウサギ・ニホンリス・ノラネコも確認されています。

III. 畑の混じる住宅地

月京から国道1号にかけての地域：住宅地が多く、面積を占め、畑が点在し、川が流れています。

特徴：森林に依存する哺乳類は見られず、移動能力の高い中型哺乳類と人間の作った環境に依存するアブラコウモリとドブネズミが見られます。

IV. 住宅地

大磯港から東町にかけての地域：住宅地がほとんどの面積を占め、緑地は庭しかありません。

特徴：ノウサギのような草食性の種類は見られず、移動能力が高く住宅地でも餌がある中型哺乳類が確認されました。人間の生活に依存しているドブネズミが生息しています。

V. 草地とミカン畑

黒岩のゴルフ場から西久保にかけての地域：ゴルフ場の草地とミカン畑が多く面積を占め、住宅が散在しています。

特徴：森林に依存する種は見られず、移動能力の高い中型哺乳類と人間の生活に依存するクマネズミが見られます。

VI. 谷戸

西小磯から国府本郷にかけての谷戸：畑・田・休耕田があります。

特徴：移動能力の高い中型哺乳類とイネ科植物の生える休耕田に依存するカヤネズミが見られます。アカネズミは休耕田の地表面で確認されました。

3. 交通事故に遭う哺乳類

大磯町環境美化センターでは死亡した動物を処理しています。そこで処理した中型野生哺乳類（主にタヌキ・ハクビシン）のデータに著者が調べたデータを加えて、月毎に比較してみました(図2)。死亡地点により死因はほとんどが交通事故死と考えられます。

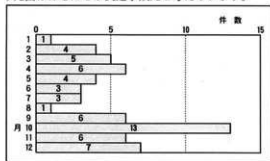


図2 中型哺乳類月別事故死件数 (n=59)

9月から12月にかけてかなりの数が交通事故死しているのがわかります。この時期は、タヌキの5～6月に産まれた子供が親から離れて行動を始める時期と一致します。ハクビシンは春と秋に出産しますが、おそらく春産まれの子供もこの時期に一人立ち（一頭立ち？）すると考えられます。このことから、この時期の交通事故は経験の少ない子供が遭うと考えられます。

3～4月と若干件数が増えます。はっきりとした理由はわかりませんが可能性として以下の2つが考えられます。①前年の秋に産まれたハクビシンの子供が独立。②繁殖期にあたるので、興奮状態になっている（恋をすると周りが見えなくなる？）。

4. さいごに

この原稿を書くにあたって用いたデータは、大磯町史（1996年出版予定）執筆の為に収集したものです。

【トピックス】

◇ 自然観察会

12月10日(土)、11日(日)自然観察会「木の実、落ち葉のいろいろ」を行いました。この自然観察会は、木の実や落ち葉などを利用していろいろなものを作り、その中で植物個々の実や葉の特徴をつかんでいただくという意図で企画したものです。対象は、小中学生。講師には、獣医師であり植物をはじめ自然のことに詳しい中山和也氏にお願いしました。観察会当日は、町内より2日で延べ37人が集まり、1日目、植物採集を行いながら植物個々の特徴について話しを伺い、2日目は、クリスマスリース、マツボックリのクリスマスツリーを作成しました。

参加者の中には、小学校低学年の児童が多かったのですが、一人一人がいろいろと工夫を凝らし、大人顔負けの作品に仕上がりました。好評につき、来年度の自然観察会も同じような企画を組み込んでいきたいと思えます。



【表紙説明】

表紙の写真はハクビシンの顔です。ハクビシンは、タヌキ、キツネ、イタチとは異なり、ジャコウネコ科に属します。ハクビシンは、顔の大部分が黒く、鼻から頭にかけて白帯があり目の上下、頬が白くなっていることが顕著な特徴です。

近年、大磯町内でも西小磯、国府本郷、国府新宿、石神台などでへい死体が発見されています。郷土資料館に入ってくるハクビシンの情報も年々増加しており、大磯にすむハクビシンも増えてきているように思われます。

【資料の受入】

(寄贈) ご協力ありがとうございました。

高 麗 田端 裕氏	トラツグミ
高 麗 杉山 美紀氏	スズメ
高 麗 小幡 昌宏氏	ヒバチ他
大 磯 木村 純子氏	衣服他
大 磯 原 恒之氏	看板他
大 磯 横手 正雄氏	ニホンアナグマの複製
西小磯 大内 満氏	筆入れ
西小磯 鈴木 東一氏	トウロウ
西小磯 大内 国三氏	典籍
西小磯 中山 和也氏	コサギ
西小磯 柳田 勝久氏	ロ (槽)
国府新宿 府川 孝明氏	イモスリキ
国府新宿 加藤 英雄氏	ヒノシ他
石神台 安尾 葉子氏	スズメ
寺 坂 渡辺 美代氏	サルノコシカケ他
平塚市 加藤 春雄氏	帯他
平塚市 金子 寿男氏	ウナイグワ他
茅ヶ崎市 後藤 和夫氏	消防装束他

藤 沢 市 甘粕 栄司氏	蛍石他
横 浜 市 飯塚 泰之氏	コビキノコ
山 北 町 荻野 治久氏	ハコマクラ他

(移管)
美化センター 典籍

(寄託)
国府本郷 近藤 俊雄氏 古文書

Report 一大磯町郷土資料館だより-No.11
平成7年3月31日
編集発行 大磯町郷土資料館
〒255 神奈川県中部大磯町西小磯446-1
TEL 0463(61)4700
FAX 0463(61)4660